

4 全国の調査結果の概要

(1) 児童生徒の体力・運動能力の状況

① 体力合計点の状況

平成 20 年度の調査委開始以降の推移をみると、令和元年度は小・中学生の男女ともに低下した。小・中学生ともに、女子よりも男子が大きく低下しており、特に、小学生男子は過去最低の数値であった。

小学生



中学生



主な背景

- 授業以外の運動時間の減少 ⇒ 1 週間の運動時間が 420 分以上の割合が、小・中学生共に減少。
- スクリーンタイム*の増加 ⇒ 小・中学生ともに増加しており、特に男子が長時間化している。
- 肥満である児童生徒の増加 ⇒ 小・中学生ともに増加。
- 朝食を食べない児童の増加 ⇒ 小学生が増加。ただし、中学生は変化なし。

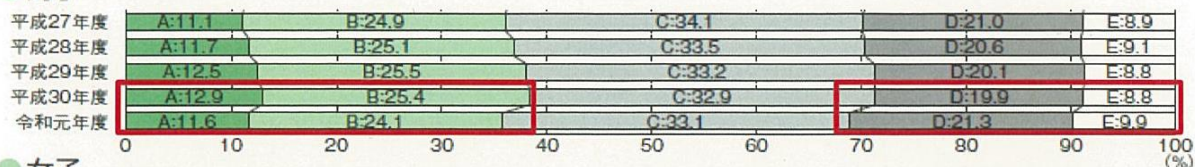
*スクリーンタイム…平日 1 日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機などによる映像の視聴時間

② 体力合計点の評価の状況

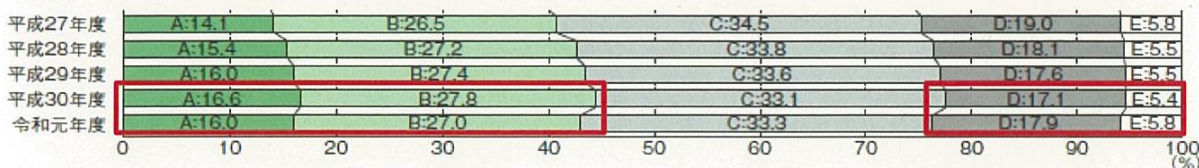
体力合計点の評価の変化をみると、令和元年度は、小・中学生男女ともに、A・Bの割合が減少し、D・Eの割合が増加しており、全体的に体力合計点が低下していると推察される。

(小学生)

● 男子



● 女子

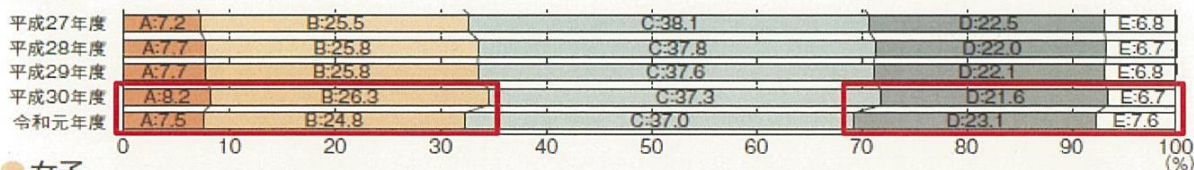


A・Bが減少

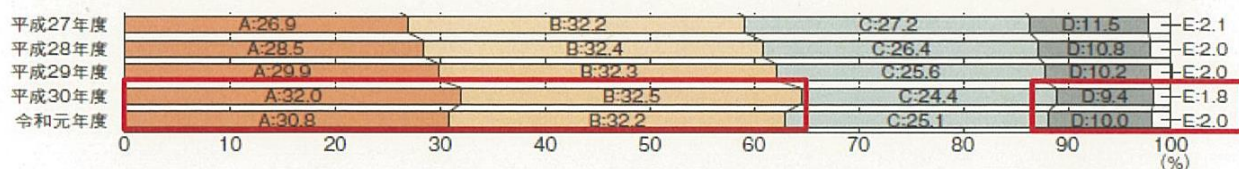
D・Eが増加

(中学生)

● 男子



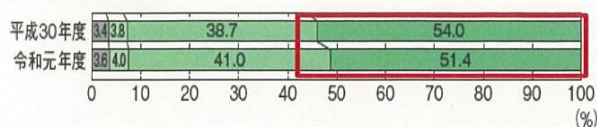
● 女子



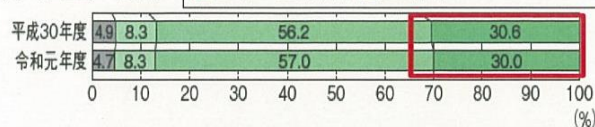
(2) 児童生徒の運動時間（体育の授業を除く）

1週間の運動時間が420分以上の割合は、減少しており、特に男子の方が低下幅が大きい。

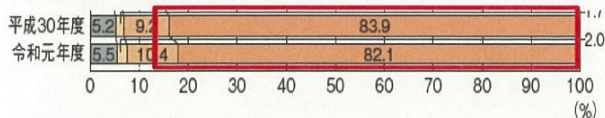
(小学生) 男子



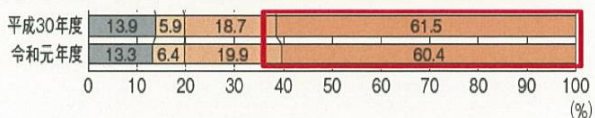
(小学生) 女子



(中学生) 男子



(中学生) 女子



【運動時間別の体力合計点】

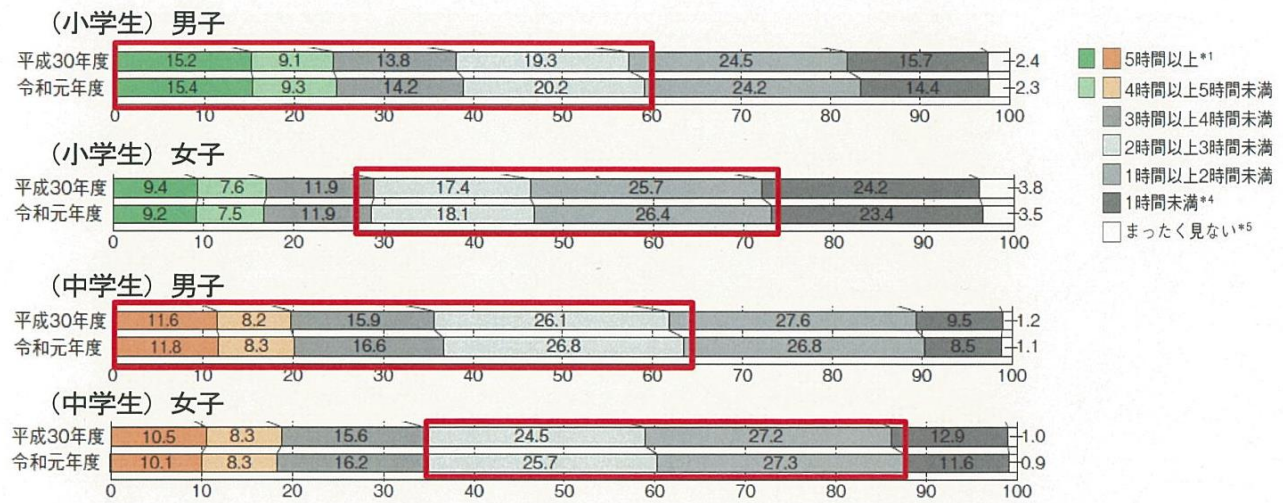
1 週間の運動時間が 420 分以上の児童生徒は、それ以外の児童生徒と比べ体力合計点が高い

	小学生		中学生	
	男子	女子	男子	女子
420 分未満	49.3	53.7	33.3	43.1
420 分以上	57.6	60.0	43.4	54.7
全国平均	53.6	55.6	41.6	50.0

(3) 児童生徒の生活習慣

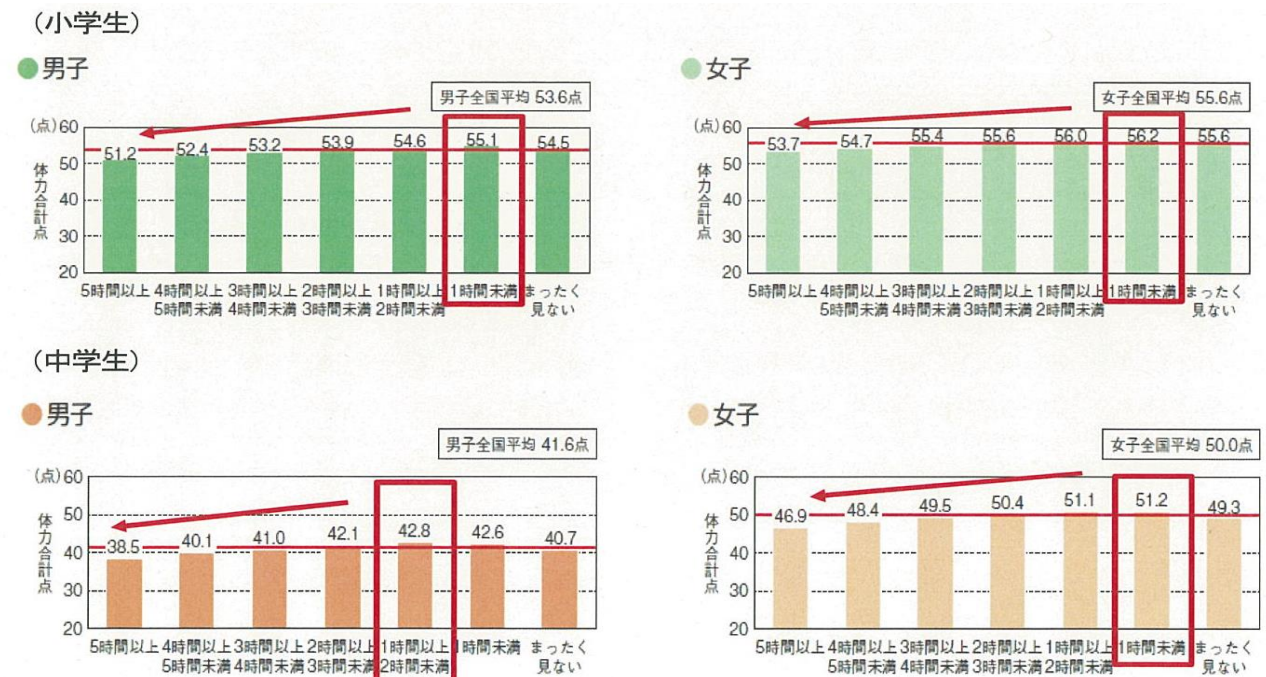
① スクリーンタイムの状況

スクリーンタイムは増加しており、特に小・中学生の男子が長時間化している。



【スクリーンタイムと体力合計点との関係】

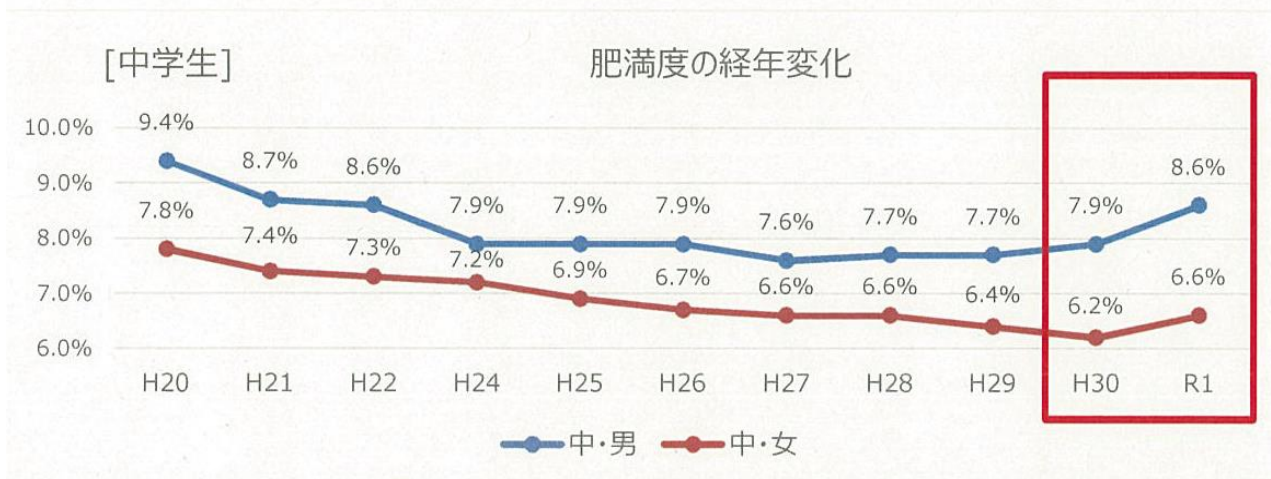
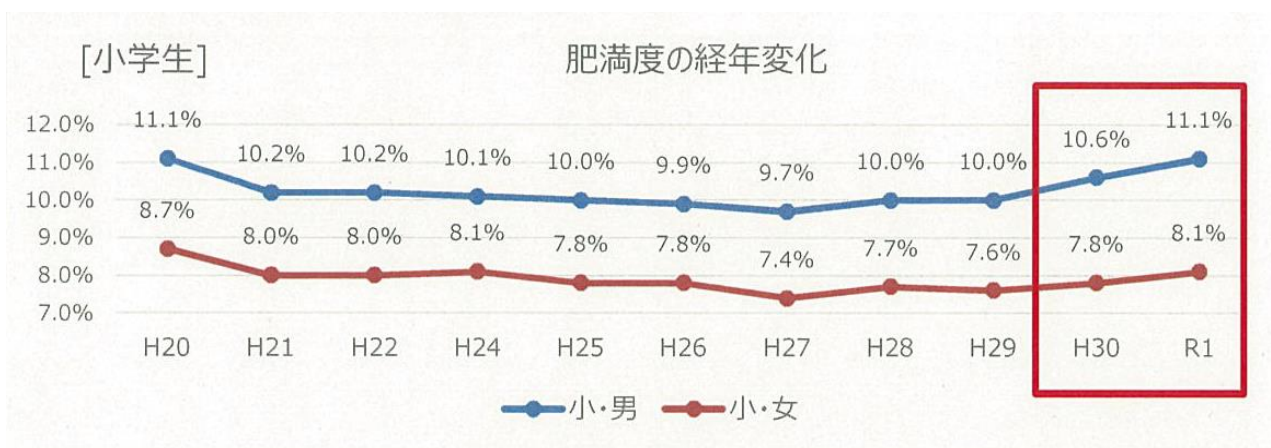
スクリーンタイムが長時間化になると、体力合計点が低下する傾向がみられる。



② 児童生徒の体格の状況

小・中学生の男女ともに、肥満の割合が増加。

【肥満である児童生徒の割合の経年変化】



【体格別の体力合計点】

肥満である児童生徒は、その他の児童生徒と比較し、体力合計点が低い傾向がみられる。

	小学生		中学生	
	男子	女子	男子	女子
痩身	53.4	54.9	36.5	46.6
普通	54.4	56.1	42.4	50.6
肥満	47.5	50.8	35.4	44.6
全国平均	53.6	55.6	41.6	50.0